

「学ぶ力」	
成果	課題
◇学習アンケートの結果で「もっと知りたい」「もっと学びたい」と感じる児童が全体の8割以上おり、取組の成果であると考え。 ◇学習アンケートの結果で「学ぶことが楽しい」「分かる授業は楽しい」と感じる児童が全体の7割以上おり、取組の成果であると考え。 ◇家庭学習の取組を全学年、発達段階を基に創意工夫した取組を行うことができた。	◇一時間の中で何を考えさせ何を学ばせるのかを明確にし、子どもの追究意欲を高める授業をさらに目指す。 ◇一人一人の子どもが学ぶ喜びや満足感を味わえる授業をさらに目指す。 ◇長期休業中も含めて年間どのように家庭学習に取り組んでいくのか、さらに家庭学習でどのような力を付けさせるのかを明確にする。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇札幌市の共通指標の「自分が必要とされていると感じる」等の相互承認に関連する項目において、肯定的な回答が昨年度より増加傾向にある。学習アンケートでは、「友達の考えが役に立っている」「自分の考えが役に立っている」と回答する児童が増え、「学ぶことが楽しい」と関連付けて回答する児童も増えている。課題探究的な学習が自己肯定感の高まりに寄与していると考え。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

追究意欲を高め自ら学びに向かう力

取組	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進 に向けて	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実 に向けて
	◇研究副主題「自らの学びを実感する授業」の具現化 子どもが「知りたい」「学びたい」と動き出すためのイントロダクションや、学びを実感するためのリフレクションを大切に してAARサイクルの視点で授業作りを行い、子どもの姿で語り 合う実践的な研究を推進する。	◇コミュニティスクールの仕組みの活用 子どもたちの意思を実現する活動を中学校と連携し位置付け、 <u>子どもの思いや願いを受け止める活動を充実させる。</u> ◇さっぽろっ子サミットと関連を図った活動の推進 <u>パートナー校との交流・協議の場を設定する。</u>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
◇複数のツールの中から、課題解決を目指して適当なものを、児童自ら選択できるような環境を整備するとともに、各ツールの利点などの特色について事前指導の機会を設ける。 ◇本校で採択している「スクールタクト」を中心に、相手を意識しながら自分の思いを表現することや、ワードクラウド等で一人一人の意見や考えを可視化したりすることを通して、個別探究・協働探究の場面での学びを深めることをねらう。		

<本プログラムの実行に向けて>

